

疑問詞を用いる列挙表現について
—現代中国語の「什么 shénme」を中心に—

趙 葵欣

On Enumeration Constructions with Interrogative Words:
With Special Focus on *Shénme* (什么) in Mandarin Chinese

ZHAO Kuixin

Abstract Interrogative words which ask for information about something can be used to enumerate not only in English (for example, *and what not*) and Japanese (for example, *nanni + to* → *nado*, “so on”), but also in Mandarin Chinese. For example, the interrogative word *shénme* (什么, “what”) can be used to enumerate in Mandarin. This paper describes two types of enumeration constructions with *shénme* in Mandarin: the prefix type “*shénme* A, B ...” and the postfix type “A, B ... *shénme de*”, and considers differences between the prefix type and the postfix type from the perspectives of syntax and pragmatics. In addition, the paper discusses the feature of enumeration expressions with *shénme* in Mandarin by comparing them with similar expressions in English and Japanese. It is universal that lexical means are needed for the postfix type in all three languages, while it is only in Mandarin that the interrogative word *shénme* can be put before and after enumerated items.

キーワード 列挙表現 疑問詞 「什麼」 現代中国語

現代中国語では、いろいろなモノを取り上げて列挙を表す際に、「等、等等、之类、之流」などの助詞を使う。しかし話し言葉には、英語の *and what not* や日本語の「など」(なに+と) のような、事物をたずねる疑問詞を用いる列挙表現もある。本稿はまず、現代中国語における「什么 shénme」(なに) の基本用法を紹介し(第1節)、「什么」を用いる列挙表現の2つのタイプを記述する(第2節)。次にその2つのタイプの列挙表現の、形式と語用にある差異を考察し(第3節)、英語と日本語を中心とし

た他言語の類似表現と比べ、現代中国語における「什么」の列挙表現の特徴を明らかにする（第4節）。最後に本稿の結論をまとめ、残った問題点や今後の課題を整理する（第5節）。

一、現代中国語の「什么」の基本用法

「什么」は現代中国語の事物をたずねる疑問詞である。現代中国語における「什么」の基本用法は、『現代漢語詞典』（第7版）（北京：商務印書館、2016年）には以下のように記されている：

什么：疑問代詞。①表示疑問。a) 単用，問事物：这是～？ | 你找～？ | 他说～？ | ～叫押韵？ b) 用在名词前面，问人或事物：～人？ | ～事儿？ | ～颜色？ | ～地方？

②虚指，表示不肯定的事物：他们仿佛在谈论～ | 我饿了，想吃点儿～。

③任指。a) 用在‘也’或‘都’前面，表示所说的范围之内没有例外：他～也不怕 | 只要认真学，～都能学会。b) 两个‘什么’前后照应，表示由前者决定后者：想～说～ | ～场合说～话。

④表示惊讶或不满：～！九点了，车还没有开！ | 这是～鞋！一只大一只小的！

⑤表示责难：你笑～？（不应该笑）……

⑥表示不同意对方说的某一句话：～晒一天？晒三天也晒不干。

⑦用在几个并列成分前面，表示列举不尽：～送个信儿啊，跑个腿儿啊，他都干得了。

——『現代漢語詞典・第7版』（商務印書館、2016：1161）

（什么：疑問代名詞。①疑問を表す。a) 単独で使用する、事物を尋ねる：これは何ですか。 / あなたは何を探しますか。 / 何が押韻というものですか。 b) 名詞の前に用い、人・物を尋ねる：どういう人ですか。 / なんの事ですか。 / なんの色ですか。 / どんな所ですか。

②不明確な事物・人を示す：彼らは何か議論しているようです。 / 私はお腹が空いた、何か食べたい。

③任意の事物・人を指す。a) 「都」或いは「也」の前に用い、取り上げた範囲内では例外がないことを表す：彼はどんな事も怖くない。 / 真面目に勉強したら、何でもマスターすることができます。 b) 2つの「什么」が前・後で呼応して、後ろの事を前の事が決定することを表す：何か言いたいことがあればそれを言いなさい [言いたいことがあれば何でも言って]。 / どんな場合でもその場合に適切な話を言うべきです。

④驚き・不満を表す：なに！もう9時になったのに、バスはまだ出発していないの？ / これはなんて靴だ！片方が大きく片方が小さい。

- ⑤非難の気持ちを示す：何を笑っているんだ〔笑うべきではない〕。
- ⑥相手のある言葉に反駁する：一日干すだって？3日干しても乾燥できない。
- ⑦いくつかの並列した要素の前に用いて、列挙し尽くしていないことを示す：手紙を送ったり、使い走りをしたりと、彼は何でもできる。

本稿は⑦の、いろいろなものを取り上げ、列挙を表す際に「什么」を用いる表現について考察する。

先行研究としては、疑問詞「什么」の発展用法として述べたり(邵敬敏、趙秀鳳 1989; 野田寛達 2015)、現代中国語の列挙表現の一つとして、他の列挙助詞と比べるものはあるが(張誼生 2001)、「什么」を用いる列挙表現の類型差異や、他の言語との異同に関してはまだ研究がない。疑問詞及び疑問詞の発展用法は、世界の言語における普遍性のある言語現象の一つであるため、本稿は言語類型学の視点から、主に英語と日本語の類似表現と対照し、現代中国語における疑問詞を用いる列挙表現の特徴を明らかにしてみたい。

二、「什么 shénme」を用いる列挙表現

現代中国語における列挙表現には、よく助詞「等・等等・之类」が使われるが、話し言葉では多く「什么」を用いる(張誼生 2001; 邵敬敏、趙秀鳳 1989)。その「什么」を用いる列挙の表現は、「什么」の文法位置によって2つのタイプに分けられる。

2.1 前置タイプ「什么 A、B……」

列挙項目の前に「什么」を使って、「…とか、…とか」を表す。例¹⁾：

- (1) 外面的谣言他不大往心里听，什么西苑又来了兵，什么长辛店又打上了仗，什么西直门外又在拉案，什么齐化门已经关了半天，他都不大注意。

(老舍『骆驼祥子』)

(噂などにはほとんど耳を貸さなかった。西苑にまた兵隊がやってきたぞとか、長辛店でまたドンドンバチバチおっぱじまったぞとか、西直門外でまた人夫の徴発をやっているぞとか、齊化門がしめきりになっているぞとか聞いても、気にもとめなかった。)

- (2) 来到这里作小买卖的，几乎都是卖那顶贱的东西，什么刮骨肉，冻白菜，生豆汁，驴马肉，都来这里找照顾主。

(老舍『骆驼祥子』)

(ここにやってくる物売りたちは、くず肉、凍み白菜、生の豆乳、驢馬の肉

¹⁾ 以下の例で所出の記載がない例文は、語料庫在線 <http://corpus.zhonghuayuwen.org> からのものである。老舍の作品の日訳に関しては参考文献を参照。他の明記のない翻訳箇所は執筆によるものである。

といった、これ以上安いものはないというものばかりもってくる。）

- (3) 自从虎妞搬来，什么卖羊头肉的，熏鱼的，硬面饽饽的，卤煮炸豆腐的，也在门前吆喊两声。 (老舍『骆驼祥子』)

(虎妞が越してきて以来、羊肉、魚の燻製、上等のパン、煮豆腐などをもった物売りたちも、路地の入口で売り声をあげてゆくようになった。)

- (4) 什么故意的绷大价，什么中途倒车，什么死等好座儿，他都没学会。 (老舍『骆驼祥子』)

(べらぼうな値をふっかけたり、途中で仲間の車に乗りかえさせたり、いい客がつくまではぜったいに梶棒をあげないとかいったことはまちがってもやらなかった。)

- (5) 在这种时候，他也很会掏坏，什么横切别的车，什么故意拐硬弯，什么别扭着后的车，什么抽冷子搽前面的车一把，他都会。 (老舍『骆驼祥子』)

(そして、こんなときには、さかんにいたずらをやった。ほかの車の鼻先を横切ってみたり、わざと急にまがってみたり、うしろの車の邪魔を試みたり、前の車をいきなりドンとおしたりと、悪いことはなんでもやったり、前の車をいきなりドンとおしたりと、悪いことはなんでもやったり。)

また、「啦、呀、咧」のような語気助詞を取り上げた項目の後ろに付け、「什么…啦」、「什么…呀」「什么…咧」という表現もある。例：

- (6) 什么滑冰啦，游泳啦，打乒乓球啦，他都喜欢。
(スケートだとか、水泳だとか、卓球だとかいったものは、彼はみんな好きだ。)

- (7) 什么公民团咧，什么请愿团咧，凡是有人出钱的事，他全干。
(デモであれ請願であれ、金になることならなんでもやった。)

- (8) 原来是要盖一个餐具厂，就是做什么调羹呀、叉子呀、刀子呀等等的工厂。
(袁静『死里逃生的小鲤哥』)
(元々食器工場、つまりレンゲとか、フォークとか、ナイフなどを作る工場を建てたかった。)

さらに他の列挙を表す単語、例えば「等等、之类」と共起することもできる。例えば前文の例(8)は「什么……等等」の形になっており、次の例(9)では「什么……之类」になっている。

- (9) 危楼虽小，人才济济，什么处理品，便宜货，假公济私，开个后门之类，还是有办法给阿宝省几个钱。
(李国文『危楼记事』)
(危険建築は小さいのだが、優秀な人材が多くて、横流し品だとか、バツタ品だとか、公私混同だとか、コネを使うだとかで、阿宝ために何円か節約する方法はやはりあるのだ。)

2.2 後置タイプ「A、B…什么的」

疑問詞「什么」は、列挙項目の後ろに置くこともできる。その際には助詞の「的」を「什么」の後に加える必要があり、「A、B…什么的」の形式で用いる。例：

- (10) 再说呢，祥子只顾死奔，就不大匀得出工夫来帮忙给擦车什么的，又是一项损失。
(老舍『骆驼祥子』)
(次に、祥子が稼ぐことに夢中になって、車を磨いたりする暇もおちおちなくなってきたことだ。これまた損害だ。)
- (11) 送完了客，帮着张妈把牌桌什么的收拾好，祥子看了太太一眼。
(老舍『骆驼祥子』)
(客を送って帰ると、張媽が麻雀卓やなにかを片付けるのを手つだい、すっかり片づいたところで、彼は奥さんの顔をちらりとうかがった。)
- (12) 剩下的只是一些破旧的衣裳，几件木器，和些盆碗锅勺什么的。
(老舍『骆驼祥子』)
(残っているのは何着かの不断着と木の器や台所道具くらいなものであった。)
- (13) 再说，夏太太所去的地方不过是东安市场与中山公园什么的，拉到之后，还有很大的休息时间。
(老舍『骆驼祥子』)
(また、奥さんの行く先も東安市場か中山公園あたりにきまっけていて、むこうでは休む時間がたっぷりあった。)
- (14) 小两口打架吵嘴什么的是一回事。
(老舍『离婚』)
(若夫婦のけんかやいいあいとなると、話は別で…)
- (15) 神秘是顶有趣的，没事儿我还就是爱读个剑侠小说什么的，神秘！
(老舍『离婚』)
(神秘は、そりゃ実に面白いことさ。ひまなときはほくも義俠小説などを愛読してるよ…)

「A、B…什么的」の「的」は、現代中国語でよく使う助詞で、多くの意味を持っている。その中には「並列した語句の後ろに用い、『…といった類』の意味を表す」の意味があり(牛島徳次、菱沼透訳・呂叔湘主編2003:78)、「A、B…什么的」に用いられている「的」は、この意味と直接繋がっていると考えられる。

三、前置タイプと後置タイプの差異

前置タイプと後置タイプはどちらも列挙を表すが、意味や文法形式と語用に差異がある。具体的な考察、特に意味上の相違に関しては別稿に譲り、ここでは文法形式と語用について簡単に述べる。

3.1 文法形式

文法形式から見ると、「什么」を用いる2つのタイプの列挙表現には、3つの相違点がある。

A. 前置タイプの「什么」の後ろにある列挙の項目は、必ず2つ以上が必要だが、後置タイプではこのような制限がなく、列挙項目が1つだけでも成立する。例えば前文の例(11)「送完了客，帮着张妈把牌桌什么的收拾好，祥子看了太太一眼」では、「什么的」の前にある列挙項目は「牌桌」（麻雀卓）だけである。以下の例(16)も同様である。

- (16) 我看他一喜欢，就弄点酒什么的，让他喝个痛快。 （老舍『骆驼祥子』）
（で、お父っつあんが機嫌よくなったところを見はからって、あたしが酒をだし、ふんだんに飲んでもらう。）

「什么的」の前には「弄点酒」（酒をだす）と言う動作1つしかない。

だが前置タイプの「什么 A、B……」は、このような表現ができない。例えば前例(6)は、もし列挙項目が1つだけになれば文が成立できない。以下は例(6)を再引用する。

- (6) a. 什么滑冰啦，游泳啦，打乒乓球啦，他都喜欢。
*b. 什么滑冰啦，他都喜欢。

(6) bのような表現は非文である。前文の例(2)、(3)、(8)、(9)は、全て同様の表現である。或いは例(1)、(4)、(5)、(7)のように、「什么 A、什么 B、什么 C……」と、いくつかの「什么」を並べて表現する。

B. 「A、B…什么的」は文末に置き、文を完成させる役割があるが、「什么 A、B……」は、後ろにまだ他の文を続ける必要がある。例²⁾：

- (17) 桌子上摆着一碟菜，还有酒杯、酒壶什么的。
（『現代漢語八百詞・増訂本』：P484）
（テーブルの上には料理が一皿と、それにさかづき、とっくりなどが並んでいる。）
- (18) 货架上放满了白菜、萝卜、柿子椒什么的。
（『現代漢語八百詞・増訂本』：P484）
（商品棚には白菜や大根、ピーマンなどがいっぱい並んであった。）
- (19) 这样一来，什么交通指挥啦，红绿灯啦，都成为过时的玩意儿了。
（路明『战胜重力的时代』）
（そうすると、交通指令とか、信号機とか、全て時代遅れものになっていた。）
- (20) 什么鸡呀、鱼呀、肉呀，我一个劲地往家中买，并一再敦促她多吃点，可全没

²⁾ 例(17)、(18)の日本語訳は牛島徳次、菱沼透訳・呂叔湘主編（2003）によるもの。

用,我有点着急了。(李佳桂『桂園』)
(私は鶏肉とか、魚とか、豚肉とかを、一生懸命に家を買って帰って、そしてもっともっと食べるよう彼女に繰り返し促したが、全然役に立たなかった、私は少し心配してきた。)

例(17)、(18)は「…什么的」が文末にあり、あるからこそ言い切りの文として成立している。それに対して例(19)、(20)は、「什么交通指挥啦,红绿灯啦」(交通指令とか、信号機とか)、「什么鸡呀、鱼呀、肉呀」(鶏肉とか、魚とか、豚肉とか)の後ろには必ず文がある。そうでなければ意味不明な文になる。

C. 後置タイプは単文の一部、つまり単文の構成成分になることができるが、前置タイプは単文の構成成分になりにくい。例：

(21) 孙玉璋思付了一下,“在公园里,有一些滑梯、转马什么的……”
(張賢亮『男人的風格』)
(孫玉璋はちょっと考えた:「公園には滑り台やメリーゴーランドなどがいくつかありますが…」)

(22) 可是闲话还是不少,什么木炭太少啦,灯油不够啦,棉被欠厚啦。
(楼适夷『王鼎三和小白脸』)
(でも文句がやはり少なくない、木炭が少ないすぎや、灯油が足りないや、掛け布団が薄いなど。)

例(21)の「滑梯、转马什么的」(滑り台やメリーゴーランドなど)は動詞「有」(ある)の目的語であるが、例(22)の「什么木炭太少啦,灯油不够啦,棉被欠厚啦」(木炭が少ないすぎや、灯油が足りないや、掛け布団が薄いなど)は、単文の構成成分である主語や目的語、述語、修飾語などではなく、前の「可是闲话还是不少」(でも文句がやはり少なくない)と並び、それと違う文になっている。前述で取り上げた後置タイプの例(10)~(18)も例(21)と同じで、「A、B…什么的」部分は、それぞれ文の目的語や主語などになっている。それに対して、前述にある前置タイプの例(1)~(9)、例(19)、(20)の中の、例(8)だけは「做」の目的語になっていて、他の例は全て単文の外部になっている。以下のコーパスでの調査結果にも、このような傾向が見られた。

1200万字のコーパス「国家語委現代漢語平衡語料庫」(<http://corpus.zhonghuayuwen.org>)を検索し、一つ一つの例文を確認して得た「什么」の162の列挙用例から、前置タイプと後置タイプが構成成分になっている用例数を以下の表1に示す。

全部で162例のうち、前置タイプは52例あり、後置タイプは110例ある。単文の構成成分になっている列挙表現だと、前置タイプは52例中わずか2例しかないが、後置タイプは110例の内の103例もある。つまり今回のコーパスでの調査によると、後置タイプ「A、B…什么的」は、例の内の93.6%の用例が単文の構成成分になって

表1 前・後置「什么」列挙表現の統語的 (syntactic function) な差

	前置タイプ「什么 A、B…」		後置タイプ「A、B…什么的」	
	単文の構成成分になっている	単文の外部である	単文の構成成分になっている	単文の外部である
	2 (3.8%)	50 (96.2%)	103 (93.6%)	7 (6.4%)
合計	52		110	

いるが、前置タイプ「什么 A、B…」は、単文の構成成分になっている用例が3.8%に留まっている。前置タイプ「什么 A、B…」が構文成分になりにくい状況がはっきりと分かる。

3.2 語用について

「什么」を用いる列挙表現の2つのタイプには、語用の差異も見られる。前置タイプの「什么 A、B…」には、列挙している項目の話題化がよく見られる。長い文も多く、話し手が発言する際に自分の発言がまだしっかり用意できていないので、猶予時間を稼ぐためにまず「什么」を用い、その後思い付いた言葉を続けていると考えられる。

対して後置タイプの「A、B…什么的」は、話し手が色々な列挙項目を取り上げ、その後もう必要がなくなるや、言いたくないなどの理由によって「什么的」を用い、話を縮めていると考えられる。語用論から言うと、言語の経済原則に従っていると考えられる。

四、他言語との対照

現代中国語だけではなく、「なに」のような疑問詞が列挙表現に使われている現象は、他の言語にも見られる。以下では英語と日本語の類似表現を取り上げ、中国語と対照することで、中国語の「什么」を用いる列挙表現の特徴を導き出してみる。

4.1 英語

what を用いる列挙の表現は、*and what not* と *and (or) what have you* の2つである。*Oxford English Dictionary* (<https://en.oxforddictionaries.com>) には以下の説明と例文がある：

- ① *and (or) what have you*: informal, and/or anything else similar.
- (23) Some people have recently faulted others for commenting on only a small part of a piece — whether a blog post, a newspaper article, a book, or what have you.
(最近人々はブログ投稿や、新聞記事、本などにある意見のわずか一部だけ

で他人を非難します。）

- (24) “There’s a lot of other people in life that don’t get second chances,” he said, “or have diseases or have a freak accident or what have you.”

（「二度目のチャンスを得ることができない人がたくさんいます」、彼が言った、「病気や突然な事故などのせいで」。）

- (25) You can’t be cutting educational programs, social welfare programs and what have you, and pushing tax cuts – which I think are very important for the economy – at the same time.

（教育プログラムや、社会福祉プログラムなどを削減したり、減税を推進したりすることを同時にはできません——これらは経済にとって非常に重要だと思いますが。）

- ② and what not: informal, and other similar things.

- (26) It’s a kind of status symbol to show you are modern, progressive, technically savvy and what not.

（それはあなたが現代的で、進歩的かつ、手腕がよいなどを示す、一種のステータスシンボルです。）

- (27) As a result, one finds even public places like the beach littered with plastic cups, bottles and leftover food and what not.

（そのため、ビーチのような公共の場所でさえ、プラスチック製のコップや、ボトル、食べ残しの食べ物などが散らばっているのが見られます。）

- (28) The advertisements are made through banners, boards and what not.

（広告はバナーや、掲示板などを通じてなされます。）

and what not と *and (or) what have you* は、どちらも「informal」と書いてあるので、現代中国語の「什么」と同じく、主に話し言葉でよく使われていると判断できる。だが *and what not* と *and (or) what have you* は、どちらも列挙項目の後ろに置かなければならない。

4.2 日本語

日本語の「なに」も列挙を表すことができる。此島正年（1973：265-269）は以下のように述べている：

「など」の語源は「何と」で、平安朝に入って成立した語である。……列挙のばあいには、最後に同種の事物の含蓄する「なに」を置いて「……なにと」と表現したものがしだいに形式化し、「なんど」を経て「など」となった。……（中略）

近代語では「など」と同意に「な（ん）ぞ」「なんか」が用いられる。

『日本国語大辞典・第2版』（小学館、2000-2002）、『広辞苑（第7版）』（岩波書店、2018）には以下のような解説と例がある：

な - ど【等・抔】〔副助〕

（「なにと」が「なんど」を経て変化したもの）ほかにも同類のもののある中から一例として示す意を表わす。

(1)体言または体言と同資格の語句を受けて用いられる。

(4)体言を受けて、類例を例示または暗示しつつ、代表として指し示す。

*竹取物語〔9C末～10C初〕「殿の内の絹・綿・銭などある限り取り出でて」

*伊勢物語〔10C前〕二二「いにしへゆくさきのことどもなどいひて」

*土左日記〔935頃〕承平五年一月二〇日「むまの餞し、わかれ惜しみて、かしのからうたつくりなどしける」

*更級日記〔1059頃〕「その物語、かの物語、光源氏のあるやうなど」

*歌舞伎・傾城富士見る里〔1701〕一「不図若侍などに御心を懸けられまいものでもない」と

*蓼喰ふ虫〔1928～29〕〈谷崎潤一郎〉九「めったに旅行などしたことの無い要は」

なん - か〔副助〕

（「なにか」の変化した語。）「など」とほぼ同じに用いる口頭語。体言または体言と同資格の語句を受けて用いる。

(1)類例を例示または暗示しつつ、代表としてさし示す。

*姪子〔1909〕〈伊藤左千夫〉「詞づかいなんか、どことなく品がぬい」

*田舎教師〔1909〕〈田山花袋〉六「何うも中の体裁は余り感心しないから、組み方なんかは別にしようと思ふ」

（日本国語大辞典・第2版・第10巻：194、320）

など〔等・抔〕〔副助詞〕

（「何」に助詞「と」が付いたものの転。平安時代に使われだした語。本来なかった「などと」の例が鎌倉時代以後に見られる）

①ある語に添えて、それに類する物事が他にもあることを示す。…や何か。『源氏物語・桐壺』「御子たち—もおはしませば」「大殿ごもりすぐして、やがてさぶらはせ給ひ—、あながちにお前去らずもてなさせ給ひ」。「花—で部屋を飾る」

- ②それだけに限定せずやわらげていう。『枕草子』「火一急ぎおこして炭もてわたるも」。「お祝いにはネクタイ—いかがでしょう」。

なんか〔助詞〕

(代名詞ナニに助詞カの付いたものの転)

- ①一つの例として示す。「こちらの品—いかがですか」

(広辞苑・第7版:2177、14808)

以上の辞書に記述してある内容にあるように、日本語の列挙表現「など」、「なんか」は、元々疑問詞「なに」と「と」から転じたものである。そして日本語の疑問詞「何」も、列挙を表すことができると分かる。さらにコーパス「少納言」(<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon>)から、いくつかの例文を取り上げる。

- (29) 名所としては、上野・飛鳥山・小金井などが名高い。
(30) 観光をかねた寺社参詣も容易になり、伊勢参りなどに行く人も多くなりました。
(31) 毒物であるタバコは神経を破壊するだけでリラックスなどさせてくれません。
(32) スタビライザの型番なんかすごい古い。復原反応ニブすぎだし。
(33) ご苦労さま。もう喧嘩なんかすんな。帰っていい。

例(29)~(33)で示してあるように、日本語の「など」、「なんか」も英語と同じく、列挙項目の後ろに置くしかない。

これら英語と日本語の疑問詞を用いる列挙表現と比べ、現代中国語における「什么」の列挙表現には、以下の特徴が見られる。

A. 英語の「what」と日本語の「など」は、列挙項目の後ろに置かなければならないが、現代中国語の「什么」は、列挙項目の前・後両方に置くことができる。

B. 英語の「what」と日本語の「なに」は、列挙を表すには他の単語と共起しなければならない、つまりほかの語彙手段を使って、*and what not* や *and (or) what have you*、なに+と→などのような表現になっている。しかし「什么」の前置タイプは他の語彙手段が要らず、「什么」だけで列挙を表すことができる。

C. 後置タイプの「A、B…什么的」は、「的」という「類」を表す語が必要なので、後置タイプには英語や日本語との共通点が見られることになる。

4.3 中国語の方言と他言語

さらに中国語の方言や、他の言語を見てみると、「什么」を用いる列挙表現が中国語で特によく使われている傾向が見られる。

先行研究である野田寛達（2015）の「什么」の意味地図に、執筆者が調査した言語や中国語の方言状況を加えて、中国語の18種の方言と、中国語以外の15種の言語のデータを整理し³⁾、*what* 類疑問詞が列挙を表す状況を見ると、以下の表2のようになる。

表2 *what* 類疑問詞を用いる列挙表現の比較表

列挙表現	中国語（方言）	中国語以外
前置タイプだけ	成都・冷水江・広州・ 莆田・南京	韓国語
後置タイプだけ	壽光・靈石・南昌	英語・日本語
両方あり	普通話・麗水・武威・ 武漢・韶山・萊州・ 天津・濟寧・漳州 ⁴⁾	タイ語 ⁵⁾ ・ウイグル語
両方なし	桂林	ドイツ語・ノルウェー語・イタリア語・ロシア語・フィンランド語・ベトナム語・インドネシア語・マレー語・ 蒙古語・チベット語

表2によると、18種の中国語方言では「桂林」以外の17種、94.4%の方言に「什么」類疑問詞を用いる列挙表現があるが、中国語以外の15種の言語の中だとわずか5つ、33.3%に*what* 類疑問詞を用いた列挙表現がある。つまり6割以上（66.7%）の言語には、このような列挙表現がないことになる。なので「什么」を用いる列挙表現は、現代中国語で特によく使われている傾向があると言えるだろう。

五、結びと今後の課題

本稿は、主に言語類型学の視点から、現代中国語の事物をたずねる疑問詞「什么」

³⁾ 18種類の中国語の方言は普通話、四川成都（西南官話）、湖北武漢（西南官話）、湖南冷水江・韶山（湘語）、浙江麗水（吳語）、甘肅武威（蘭銀官話）、山東萊州（膠遼官話）・壽光（冀魯官話）・濟寧（中原官話）、広西桂林（西南官話）、天津（中原官話）、広州（粵語）、江蘇南京（江淮官話）、江西南昌（贛語）、山西靈石（晋語）、福建漳州・莆田（閩南語）。15種類の言語は英語、ドイツ語、ノルウェー語、イタリア語、ロシア語、フィンランド語、韓国語、日本語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、マレー語、ウイグル語、蒙古語、チベット語。イタリック体で示している言語と方言は執筆者が調査したもの。

⁴⁾ 調査協力者によると、漳州方言の前置タイプは「什么」の他に、列挙項目の後に「之类」のような単語が必要。他の方言には今回の調査では、このような状況は見られなかった。

⁵⁾ タイ語については、大東文化大学外国語学部の田中寛教授からご教示と資料をいただいたことを、ここに特に記して謝意を表す。

を用いた列挙表現を考察した。文法形式によって、列挙項目の前に置く「什么 A、B ……」と、列挙項目の後に付ける「A、B…什么的」という2つのタイプがあり、前置タイプは他の語彙手段が要らず、「什么」だけで列挙表現ができるが、後置タイプは「類」を表す「的」という単語と共起しなければならない。また前置タイプは列挙項目が2つ以上必要で、文の構成成分になりにくいのが、後置タイプは列挙項目が1つだけでも成立することができ、文の構成成分になることが多く、さらに文を完成させる機能も持っている。

「什么」を用いる列挙表現は、主に話し言葉でよく使われている。語用論の視点から見ると、前置タイプは発言の猶予時間を稼ぐ役割を持ち、後置タイプは主に言語の経済原則に従ってできたものと考えられる。

英語や日本語の類似の列挙表現と比べると、現代中国語の「什么」の列挙表現は列挙項目の前後どちらにも置くことができ、さらに他の語彙手段を使わないという特徴があった。またさらに他の言語や中国語の方言を視野に入れて見ると、疑問詞「什么」を用いる列挙表現が、中国語で特に多く使われていることが分かった。

ただし現段階で把握できた言語資料は、中国語の方言と他言語のどちらもまだ少ないので、今後より多くの言語や方言を考察すべきだと思われる。さらに、前置タイプと後置タイプはどちらが基本的なタイプなのか、このような列挙表現がそれぞれの言語・方言における *what* 類疑問詞の意味発展・文化化とどのような関係にあるのか、疑問詞を用いる列挙表現には言語普遍性 (language universals) があるのか、どのような含意的普遍性 (implicational universal) が見つけられるかなど、まだ多くの研究課題が残っている。

参考文献

- 白濱主編 2017. 『漢語小詞典 (泰語版)』, 北京: 外語教學與研究出版社。
- 呂叔湘主編 1999. 『現代漢語八百詞 (増訂本)』, 北京: 商務印書館。
- 邵敏敏、趙秀鳳 1989. 「什么」非疑問用法研究, 『語言教學與研究』第1期: 26-40頁。
- 野田寛達 2015. “shenme” 跨語言分析——基于語義地圖, 李小凡、張敏、郭銳編《漢語多功能語法形式的語義地圖研究》429-481頁, 北京: 商務印書館。
- 張誼生 2001. 現代漢語列舉助詞探微, 『語言教學與研究』第6期: 35-44頁。
- 牛島徳次、菱沼透訳 2003. 『中国語文法用例辞典』(呂叔湘主編), 東京: 東方書店。
- 此島正年 1973. 『国語助詞の研究: 助詞史素描』, 東京: 桜楓社。
- 吉田英人 2008. 『タイ語の基本』, 東京: 三修社。
- Bernard Comrie 1989. *Language universals and linguistic typology: Syntax and morphology*. Oxford: Blackwell, 2nd edition.
- Lindsay J. Whaley 1997. *Introduction to typology: The unity and diversity of language*. Newbury Park: Sage.

日本語訳の出所

「駱駝祥子」：立間祥介訳、岩波書店、1980年。

「離婚」：『現代中国文学4 老舍・巴金』、市川宏・杉本達夫・奥平卓訳、河出書房新社、昭和45年。